

そこが聞きたい!
新聞特捜部

県内29医療機関で調査した患者数は、1月下旬には1千人を超え、11月17日で295人です。1週間当たりの患者数は昨年10月中旬に1000人を超え、11月1%です。これは「新型インフル」の流行の波は県東部から西部へと動き、その後は減少傾向にあります。一つのピークを超えたともいわれています。

年齢別では、極端なばらつきが見られませんが、同調査で昨年6月29日以降、8587人の患者が確認されていますが、19歳以下が7%を占める半面、成人の中でも特に60歳以上の高齢者はわずかに

昨年6月、鳥取県内でも新型インフルエンザの感染者が初めて確認され、感染の拡大が続いています。患者数は昨年末をピークに減少傾向にありますが、未成年者が多く高齢者は少ないとも聞きます。今後の見通しも含め、現状はどうなっているのでしょうか、取材しました。

(本社・河崎誠)

新型インフル 県内の現状は？

10.1.22.
感染84%は未成年

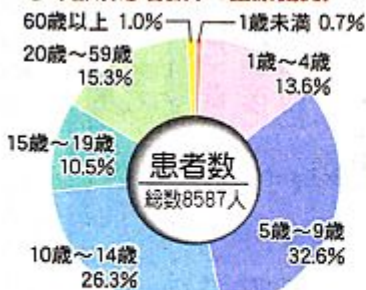
昨年末に患者ピーク
「安心しすぎ」は禁物

鳥取県内の新型インフルエンザの現状

●週別患者数の推移(29医療機関)

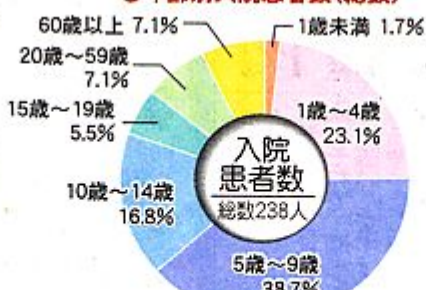


●年齢別患者数(29医療機関)



[2009年6月29日～2010年1月17日]

●年齢別入院患者数(総数)



[2009年7月28日～2010年1月18日]

以降の累計は238人。全国総数は1万5615人ですから、人口比200分の1と考

えても3倍以上の数で、研究を専門とする鳥取県健康政策課は、重症化を懸念して、早めに入院している人が多くても、ウイルスが増え

て予防対策をやめるなど、何かのきっかけ

で上昇してくることも

ある。安心しすぎない

ことが大切」と話して